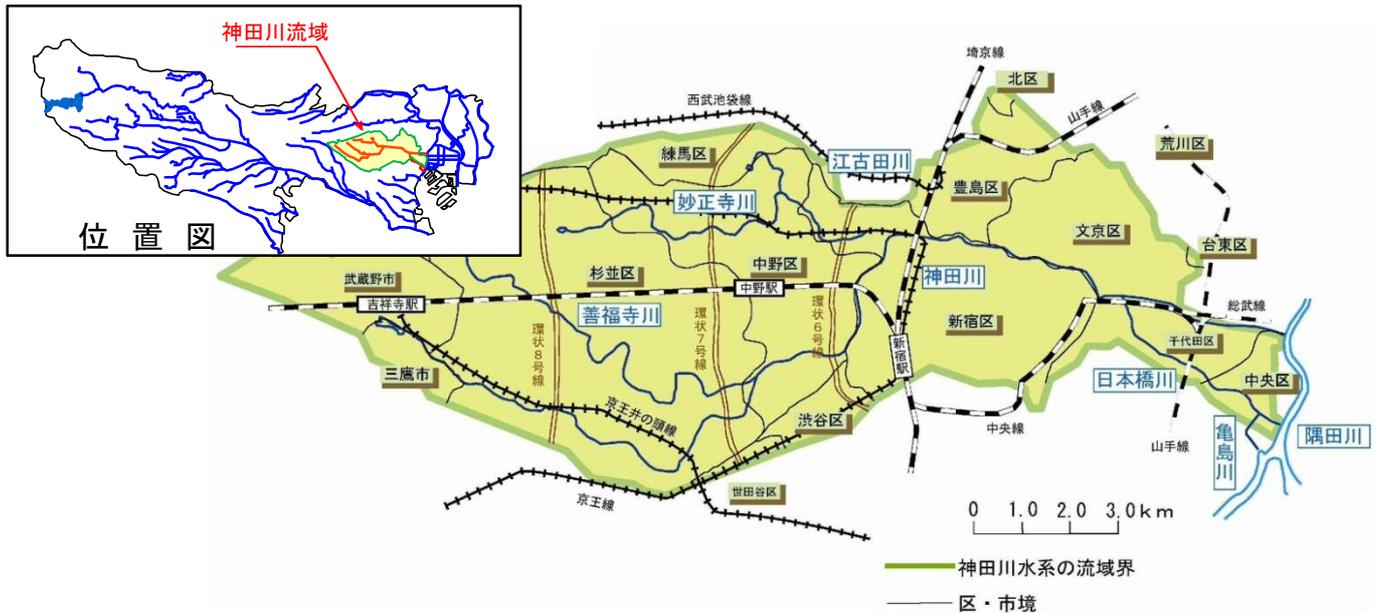


神田川流域河川整備計画の概要

神田川流域とは

神田川流域は、神田川と支川の善福寺川、妙正寺川と江古田川、派川の日本橋川と亀島川に雨が流れ込む約105km²の範囲をいいます。

神田川は、東京都三鷹市の井の頭池を源とし、途中、中野区と杉並区の区界付近で支川の善福寺川を、新宿区内で妙正寺川を合流しながら東流し、千代田区の水道橋駅付近で日本橋川を分派したのち、台東区柳橋地先で隅田川に合流する延長24.6kmの河川です。



神田川：中野区弥生町一丁目付近



善福寺川：杉並区成田西一丁目付近



日本橋川：中央区日本橋一丁目付近

流域の特徴

神田川流域は、東京の中でも比較的早い時期から市街化が進んできました。昭和20～30年代に中・上流部の開発が進むのにあわせて流域内の市街地は急激に拡大し、現在ではほぼ全域が市街地となったため、雨水の貯留・浸透機能が低下し、雨が降ると流域から一挙に大量の水が河川や下水道に流入し、水害が頻発するようになりました。

これまでも、高度利用されている流域の市街地を水害から守るため、治水の安全性の向上に努めていますが、近年においても、頻発している集中豪雨等により水害が発生しています。特に平成17年9月の豪雨により、中野区や杉並区を中心に3,000棟以上が被災しました。



集中豪雨による洪水の様子
妙正寺川中野区松が丘二丁目付近
(平成17年9月4～5日)

河川整備の目標

神田川流域では、洪水や地震、高潮に対する安全性を向上すると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、神田川、支川の善福寺川、妙正寺川、江古田川、派川の日本橋川及び亀島川の全川です。

計画対象期間はおおむね30年間としていますが、流域の社会状況等の変化や自然状況の変化、新たな知見、技術革新などにより、計画対象期間内でも必要に応じて改訂していきます。

河川整備計画の主なポイント

治水

・・・洪水、津波、高潮等による災害発生の防止又は軽減

<洪水対策>

河道に加え、洪水を貯める調節池を整備します。さらに、河川への流出を抑制する流域対策(1時間あたり約10mm規模の降雨相当)の効果を見込んだうえで、1時間あたり75mm規模の降雨に対応することを目標とします。

<地震水害対策>

将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震に対して、堤防や水門の機能を保持し、津波等による浸水を防ぐために、堤防の耐震性、水門の耐震性・耐水性*を確保することを目標とします。

*耐水性の確保・・・水門等の設備の設置位置を高くすることや水密化を行うことで、万一浸水した場合にも、施設の機能を維持することをいう。

<高潮対策>

高潮による災害発生の防止又は軽減に対しては、昭和34年の伊勢湾台風と同規模の台風が東京湾及び主要河川に対して最大の被害をもたらすコースを進んだときに発生する高潮(A.P.+5.1m)に対して、安全であることを目標とします。



神田川
中野新橋上流



神田川
お茶の水橋付近
(高潮対策対象区間)



妙正寺川
鷺宮調節池
(洪水時のようす)



亀島川
日本橋水門
(耐震・耐水化)

環境

・・・河川環境の整備と保全

<河川環境の整備と保全>

河川周辺の街並みや緑地等と一体となった河川景観・親水空間の保全・創出に努めていきます。

また、神田川流域の各河川は住宅密集地域の中を流れており、生物にとって貴重な空間であることから、魚類の生息と移動に配慮するとともに、水生植物等が生育・繁殖しやすい河川環境を形成し、本来の川らしい自然環境の保全・再生を目指していきます。



善福寺川
武蔵野橋下流
(親水整備箇所)